

## 高尾山山行報告

【山行日】2018年9月9(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー2台 : 2,800円

【メンバー】CL:鈴木、安西、岩淵、大西、島田、  
関、関口、五月女、福島、福田々、藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P6:00＝高尾山口駅  
P7:20/7:50～高尾山 9:20/9:45～城 10:50/11:05  
～高尾山 11:50/12:30～薬王院 12:50～清滝  
13:20/13:40～高尾山口駅 P13:50/14:10＝  
岩舟支所 P16:00



8月末から秋雨前線の影響で月例山行がいくつか中止になった。今回も木曾駒ヶ岳が中止になり、東京都は晴れの予報なので、代替山行で高尾山へ行くことにした。3名が不参加になり、12名で岩舟支所を6時に出発した。東北道から圏央道を走り、高尾山ICで降りると1時間20分で高尾山口駅前の駐車場に着いた。駐車場から高尾山口駅前に移動し、トイレを済ませてストレッチを行い出発



する。さすが世界一登山者が多い山で駅前の駐車場は満車になり、駅からもザックを背負った登山者が、大勢連なって高尾山を目指し歩いて行く。我々もその列に加わって歩いて行く。

清滝まで来ると道が3つに分かれ、我々は6号路「琵琶滝コース」を進むと混雑が少し緩和される。沢沿いの広い道を歩き、東京高尾病院の手前から左に進むと本格的な登山道を歩くようになる。杉林の鬱蒼とした登山道を登って行くと、コースの名前の由来である琵琶滝が現れる。

ここからは2班に分けて歩くようになり、健脚組が先行して登って行く。沢のせせらぎを聞きながら

登るコースは涼しく、残暑が厳しい季節でも暑さを感じなく歩ける。沢道分岐からは飛び石伝いに沢の中を歩くようになり、とても気持ちよく歩ける。しかしそれもほんのわずかで、沢の源頭から沢を離れ、右に巻道を進むと長い木の階段をのぼるようになる。急な木の階段を登ると汗が吹き出し、傾斜が緩くなった先のベンチで休憩を取る。汗を拭いてから菓子を食べ、水を飲んで水分を補給する。そこから緩やかに登って行くと、山頂下の大きなトイレに出



てトイレを済ませる。トイレからほんのわずかに登ると、高尾山山頂の標識がある山頂に着く。大展望台まで行き茶店で買ったかき氷を食べていると、後続の班も到着し皆で美味しくいただく。

天気は良いが雲が多く、丹沢の山は見えたが富士山は雲の中で見えなかった。かき氷を食べて汗が引いたら城山に向かって歩き出す。東屋の脇を通り石段を下ると分岐に出て、ここからは尾根道を



を歩くようになる。登山道は整備され、とても歩き易いが日差しがあるととても暑い。途中から日差しを避けて右側の巻道に入り、樹林帯の中を歩くと少し涼しく感じる。ササヤブの登山道を進み、左に急坂を登ると一丁平に出る。ここで休憩していると後続班が到着し、後続班は城山まで行かず時間で戻るとの事。城山へ標高差100mを緩やかに登り、山頂手前の急坂を一登りで山頂に着く。山頂は広く城山茶屋前のベンチとテーブルは、大勢の登山者でほぼ満席状態だ

った。空いているテーブルを見つけ、椅子に座って休憩する。隣のテーブルでは、若いお兄ちゃんが名物の「メガ盛かき氷」を食べており、あまりの大きさに皆目を丸くしていた。我々もトマトや菓子を食ベエネルギーを補給し、茶屋の前で記念写真を撮ったら下山する。下山は往路を戻り、一丁平からは尾根道を通って高尾山に登り返す。昼食を食べる予定の山頂手前の東屋に着き、後続班を探すが見当たらない。Sさんに後続班を捜しに行ってもらい、その間にテーブルを一つ確保した。Sさんが戻り皆さん山頂脇のベンチで待っているとの事で、荷物を纏めて移動する。山頂脇のベンチで味噌汁を作り、おにぎりやミソピー、カマボコ等を美味しくいただく。残暑が厳しく暑い日でも、おにぎりに温かい味噌汁は欠かせない。ランチが済んだら山頂で記念写真を撮り、薬王院へ向かって1号路を下る。



1号路は全線広い舗装路や石段を歩くの

で、観光客や登山者が多く混雑していた。薬王院境内の一番奥にある奥ノ院「不動堂」を参拝し御本社、総本堂と巡り、仁王門をくぐって石段を降りる。山門を出ると参道を歩くようになり、男坂と女坂に分かれる。石段を降りる男坂を進み、タコ杉を過ぎると勾配がきつくなり九十九折れに下って行く。沢沿いの道を歩くようになると傾斜が緩くなり、まもなく清滝に着く。駅前の広場で休憩し、後続班をここで待つことにする。後続班が到着し、清滝駅でトイレを済ませ休憩したら駐車場に向かう。駐車場で靴を履き替え、荷物を載せたら帰路につく。

途中、圏央道の狭山PAに寄り、トイレや買い物を済ませ予定より早く岩舟支所へ帰着した。